



FASF 事務局長 就任のご挨拶

FASF 代表理事常務 事務局長 いわま よしひと
岩間 芳仁

このほど、財務会計基準機構の代表理事常務 事務局長に就任いたしました。関係各位のご指導、ご協力の下、求められる責務をしっかりと果たしてまいりたいと存じます。宜しくお願い申し上げます。

私が企業会計基準と本格的に関わりを持ったのは、1980年代後半、四半期開示制度導入の是非の議論が本格化した頃、また、地価・株価上昇を背景として時価会計の必要性が叫ばれ始めた頃でした。以来、金融資本市場が荒波を乗り越えて進化し、わが国の経済・産業の発展を支えていく中で、金融資本市場の基本インフラとしての企業会計基準の影響度、重要性等を実感してまいりました。

わが国の会計基準は既に高品質かつ国際的に遜色のないものとなっておりますが、グローバル化の進展や経済社会の発展等に伴い、相次いで様々な会計ニーズが生まれています。企業の国際的な事業展開や内外市場での資金調達のために、単一で高品質な会計基準の策定に向けた取組みの重要性は高まっております。会計基準の開発を担う企業会計基準委員会（ASBJ）は、日本基準を高品質で国際的に整合性のとれたものとするべく、精力的に検討を続けるとともに、国際的な会計基準の質を高めることに貢献すべく、国際会計基準審議会（IASB）等への意見発信を行うとともに、他国の会計基準設定主体との協議等を進めております。

財務会計基準機構としても、ASBJの活動の基礎を整備・強化するとともに、IFRS財団への参画・協力、IASBに対するスタッフの派遣等を推進してまいりたいと思います。

国際化の進展やIFRSの広がりを考えると、国際会計人材の需要はますます高まっていくと予想されます。国際的な会計基準の策定の場において意見発信できる人材や、その策定に関与できる人材を育成すべく、国際会計人材の育成、拡充にも引き続き取り組んでまいり所存であります。昨年6月に閣議決定された「日本再興戦略2016」においては、「国際会計人材の育成」について、関係機関等と連携して、IFRSに関して国際的な場で意見発信できる人材及びIFRSに基づく会計監査の実務を担える人材の育成を促すことが明記されています。財務会計基準機構では、かねてより、会計人材開発支援プログラムを実施しておりますが、市場関係者から構成された「国際会計人材プールに関する検討会」における検討を経て、国際会計人材ネットワークを構築し、このネットワークの登録リストを4月に公表し、9月に更新をいたしました。また、7月には、国際会計人材ネットワーク第1回シンポジウムとして交流の場を設けました。今後も、経済社会のグローバル化、多様化、複雑化、そしてこのグローバル化の流れの中で、わが国の国際競争力を維持強化すべく、わが国の考え方を意見発信し、会計基準に適切に反映させるよう努めてまいりたいと存じます。

財務会計基準機構・企業会計基準委員会は、日本経済団体連合会、日本公認会計士協会、全国証券取引所協議会、日本証券業協会、全国銀行協会、生命保険協会、日本損害保険協会、日本商工会議所、日本証券アナリスト協会を中心に、当局、市場関係者の理解のもとに発足し、活動をしてまいりました。引き続き、広く市場関係者とコミュニケーションを密接にとり、連携、協力しつつ、市場関係者の意見を反映すべく活動を行っていきます。今後とも、わが国における会計・ディスクロージャーの諸制度の健全な発展と資本市場の健全性の確保に寄与することを目的に、市場関係者の信任を得られるよう活動を行っていく所存であり、さらなるご理解とご協力をお願い申し上げます。